



ゆみこの日記



とっておきの笑顔でサポート
「とっておきの音楽祭」

障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しむ、心のバリアフリーを目指す音楽祭—それが「とっておきの音楽祭」です。

9月22日、駅前広場で第12回「とっておきの音楽祭」が開催されました。

あいにくの大雨の中、私はスタッフとして受付を担当し、カッパを着て参加者をサポートしました。演奏者の方々も大変だったと思いますが、みんなノリノリで盛り上がりましたよ！

「とっておきの音楽祭」のこと、もっと市民の皆さんに知ってもらって、来年も、みんなで盛り上げていきたいです！



市議会議員として初めて 「わらじおどり」に参加しました！

みんなでハッピーを新調し、新しい踊りを練習して8月2日に挑みました。新人議員もベテラン議員も力を合わせて成し遂げた！という感じで、いい経験をさせていただきました。

これからも、市民の皆さまと一緒にわらじまつりを盛り上げていきたいと思っています。

小倉寺町会『夏祭り』でフィーバー



7月20日、5年ぶりに小倉寺町会で夏祭りが開催され、久々の開催とあって、子どもから大人までたくさんの方が集まりました。役員の皆さん、お手伝いされた皆さん、準備等々、大変お疲れさまでした！



フィジーからの便り

フィジー国シナヌ町役場でジャイカボランティアをしている友人、古川仁さんからの便りです。

2024年7月12日、フィジーのJICA隊員の総会が開催され、フィジー外務省からレノラ・ケレケレタブア外務副大臣も出席されました。フィジーへのJICAボランティア派遣は1983年に始まり、現在まで753名が派遣されています。コロナ禍で一時派遣が中断されましたが、現在、21名で活動を再開しています。

本総会で、隊員会長を私、古川から次期会長にバトタッチしました。また、私が制作した和服の帯を利用したタペストリーを外務副大臣に差し上げました。



三浦ゆみこと歩む会



ぜひ、歩む会の
会員になって下さい

〒960-8142

福島市小倉寺字町畑 13

TEL / FAX : (024) 563-1539

E-mail : miura.yumiko5.27@gmail.com

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.5

2024年10月

9月定例会議

くらしの「安心」を求めて 市民の声を取り上げ、一般質問

初めて質問に立ったのは昨年の9月定例会議でした。早いもので、あれから1年が過ぎ、9月10日、9月定例会議で5回目の質問に立ちました。

今回も、障がい者福祉、高齢者のくらし、介護の問題を取り上げ、質問してきました。

市の姿勢やめざす方向性の中で、取り残されてしまいがちなのが障がい者、高齢者の問題です。

当事者の声をしっかり聞いて、質問につなげていくことを通して、誰もが安心して暮らせる福島市を前に進めていきたいと思っています。



質問開始！はじめに、手話を交えてごあいさつ。

市民の声が活きる 市民目線の市政をめざして

9月定例会議では、主に「障がい者関連」の質問や「駅東口再開発事業」、「もりんシルバーパスポート事業」について質問いたしました。

今回は、6月定例会議以降に行われた自治振興協議会での「駅東口再開発事業」や「もりんシルバーパスポート事業」についての市からの説明に注目しました。

待ちに待った駅再開発事業がようやく動き出しますが、市民の皆様の不安が「安心」になるように、市民の声をどのように受け止め、形にしようと考えているのか、今一度、行政の考えをお聞きしました。

「もりんシルバーパスポート」については、来年度から新たな制度となります。不安は尽きませんが、「高齢者の足」について、引き続きしっかり考えていく必要があると思います。

今、福島市は、「転機」に向かっていきます。昨年から様々な変化に対応する中で、市民の声をないがしろにしない、市民目線の対応が求められています。

『市民と一緒に作り上げる市政』を実現するため、私も一層努力して参ります。

三浦由美子

9月議会で一般質問に立ちました — 裏面にダイジェスト版を掲載しています

誰一人取り残さない、安心・安全を求めて 9月定例会議



■ 質問項目 ■

- 1 聴覚・言語障がい者の対応について
(1) 聴覚・言語障がい者の緊急通報システムについて
(2) 消防職員の手話習得について
- 2 障がい者スポーツにおける合理的配慮について
- 3 ももりんシルバーパスポートについて
(1) ももりんシルバーパスポート上限額の見直しについて
(2) タクシー利用にマイナンバーカードを使用させることについて
- 4 福島駅東口再開発事業について
- 5 福島市高齢者いきいきプラン 2024 について

障がい者にもっと「安心」を

近年、大きな災害が相次ぐ中で、聴覚・言語障がい者の不安を少しでも取り除くため、緊急通報システムの活用と消防職員の手話取得について、提言を含め質問しました。

緊急通報システム「NET119」の登録状況と利用件数について質問したところ、消防長より「今年4月現在、聴覚・言語障がいのある方888人中71人が登録している」「平成31年のシステム運用開始以降、このシステムを利用した通報は合計で7件」との答弁がありました。登録者、利用件数ともに少なく、当事者間でよく知られていないと考えられることから、障がい者団体と連携して周知を図り、広める取り組みを進めて頂けるよう要望しました。

また、駆けつけた救急隊員から「大丈夫？」の一言でも手話で伝えられるだけで、聴覚・言語障がい者はとても安心するものです。手話で積極的に情報発信している郡山市消防署の取り組みや福島市で制定している「手話言語条例」を挙げながら、消防職員の手話の受講に取り組む予定について質問しましたが、消防長より「『可能な範囲で』取り組みたい」との答弁にとどまりました。



「NET119」の画面（例）

傍聴して下さった皆さま、ありがとうございます！



皆さんの傍聴に
大変励まされます！



障がい者も安心してスポーツを楽しめる環境づくりを

今年4月1日改訂の「障がい者を理由とする差別解消の推進に関する福島市職員対応要領」には、市の事業委託等に際し、障がい者が不利益を受けることのないよう、「対応要領」を踏まえた合理的配慮の提供について盛り込むよう努めると明記されています。

これを踏まえて、これまで何度か取り上げてきた、「ふくしまシティハーフマラソン」の実行委員会やデフスポーツ関連団体に対するサポート等における合理的配慮について、市としての働きかけや把握の状況について何点か質問しました。

これに対し市民文化スポーツ部長より、市の一連の取り組みとその中での反省点を含めた答弁がありました。

今後、障がい者団体にも実行委員会に入ってもらうことについて所見を伺いましたが、市民文化スポーツ部長からは「ご意見をちょうだいする」「今後とも、充分、意見交換を行う」との答弁に終始しました。



ふくしまハーフマラソンのロゴ

不安の声が止まない中で—シルバーパスポート「見直し」

3月定例会議以降、継続して「ももりんシルバーパスポート事業の見直し」について質問し、市民の声に耳を傾ける中で、上限設定で最も大きな負担を強いられる郊外地域の自治振興協議会などから「地域格差がますます広がるのではないか」という声を多数聞いてきました。こうした市民の声を踏まえ、「ももりんシルバーパスポート上限額2万円の制限案に市民の理解が得られていない」ことについて、市の所見を質問しました。

これについて市長は、「厳しい意見もあったが、総じて『やむを得ない見直し』との理解が得られた」とする一方、「新しい制度に移行後、高齢者の利用実態を考慮し、必要に応じた見直しを行う必要はある」との認識を示しました。

また、前の定例会議から引き続き「タクシー利用の条件にマイナンバーカード所持を必須とすることは、本来、任意であるはずのマイナカード取得を強制することにならないか」と質問しましたが、市長は、マイナンバーカードやマイナ保険証を活用した市民サービスを積極的に進めていくとの市の方針を強調するとともに、「タクシー利用を希望するならマイナカードを取得するように」との姿勢を崩しませんでした。

「いきいき」高齢者を支える体制を

「福島市高齢者いきいきプラン2024」策定に向けたパブリックコメントに寄せられた意見への市の回答があまりに画一的であることから「もっと丁寧な対応を図るべき」と考え、市の所見を求めました。

健康福祉部長の回答では「個別事業については年次のアクションプランに反映させる市の方針を示した」とのことでしたが、「プラン2024と年次アクションプラン」が繋がっていないことで尚わかりにくくなっていることを指摘しました。

駅東口再開発事業 市民の声は生かされている？

6月定例会議からの駅東口再開発事業をめぐる経過を振り返るとともに、市内18カ所で開かれた自治振興協議会では「駅東口再開発事業」については「終了後に意見交換」とされるなど、市民の理解を深めようとする「市の本気度」が伝わらないことを指摘し、「市民の理解が不十分なまま進めて良いのか」、市の所見を伺いました。

これに対し、市長は「自治振興協議会ではフリートークの中で意見をもらい答えてきた」とし、「市のWEBサイトに特設ページを開設したほか、市政だよりで丁寧に説明し、市民の間で理解は広がっている」との認識を示しました。



福島市 HP「駅東口再開発事業」特設ページより

安心して
お出かけしたい！



*シルバーパスポート事業について、繰り返し質問するのは何故？

● この度の高齢者の公共交通見直し案は、来年度からタクシー利用を加えることで利用が増えるかもしれません。しかし、年間の上限額2万円という極端な縮小案は、やはり高齢者の行動機会を奪うことに繋がると考えます。

● 現在も多く多くの市民から継続を求める声が上がっており「このまま終わらせてはならない」との思いと、一旦「見直し」としても、「状況を見て、再度見直しする」という言葉を引き出すために、質問を繰り返しました。行政が言う「合理化を優先した施策」について、簡単には受け入れられないという姿勢を示す必要があると考えます。

*「NET119」緊急通報システムについて埋まらない意識の違い

● 今回初めて、聴覚・言語機能障がい者の緊急時の通報に有効な「NET119」について質問しました。現在、対象者に対し、わずか8%の方しか登録していない現状に驚き、不安を覚えました。

● 消防職員の手話の受講についても、現場に到着してからのコミュニケーションに、手話が最も有効であることを理解して欲しかったのですが、答弁は「業務が忙しいので可能な範囲で取り組む」とのこと、私の思いは充分伝わらなかったように感じました。

● 郡山市地方広域消防組合では、業務に手話講習を組み入れ、積極的に取り組んでいます。行政と聴覚障がい者団体が、「誰一人取り残さない」との思いを共有していることが伺われます。

● こうした問題意識は、「障がい者スポーツにおける合理的配慮」の問題にも現れているように思えてなりません。

● すぐに意識を変えるのは難しいかもしれませんが、声をあげ、少しずつ変えていくことが求められていると思います。